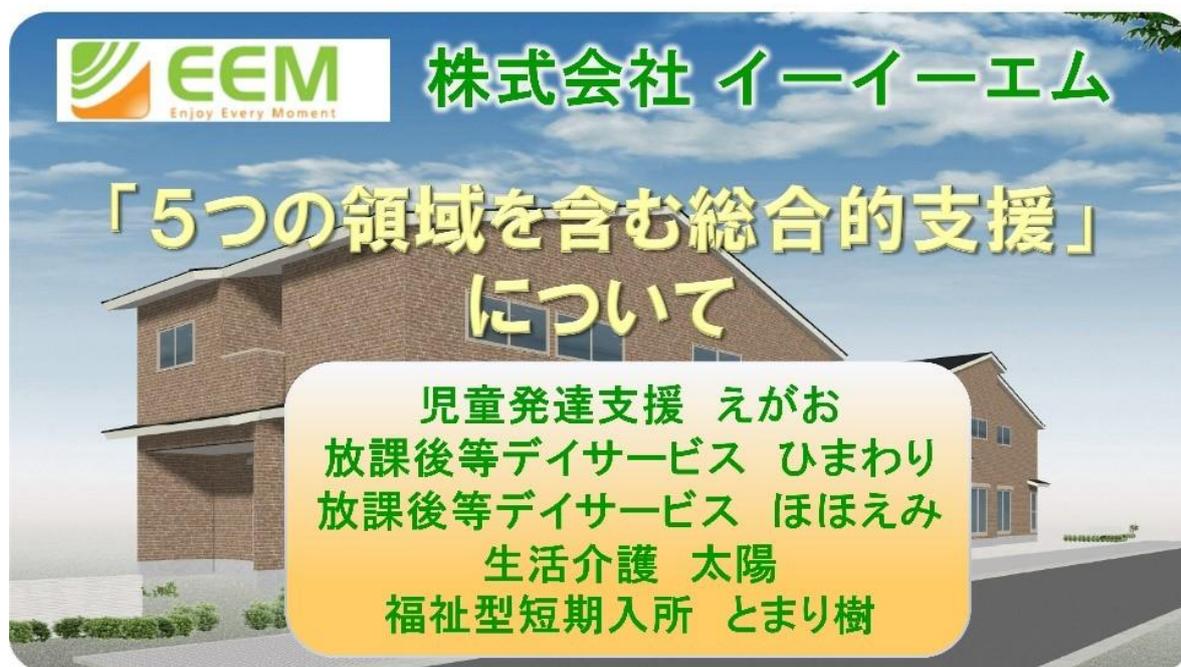


(株)イーイーエム 「総合的な5つの領域」に基づく支援について



1 法人の理念及び基本方針

重度の障がい・医療的ケアの必要がある方が地域で安心して暮らしていくため、医療・福祉の連携のもと、0歳から64歳までのそれぞれの世代の人に対してサービスの提供をしております。



法人の理念は

「安心・安全・満足できる「場所」と「時」の提供を。」を法人の理念とし、その理念のもと、運営方針として以下の4項目を挙げております。

運営方針



- 利用者の健康保持と安全確保を基本として支援にあたります。
- 利用者の人権と主体性を尊重し、一人ひとりにあった自立への支援にあたります。
- 職員は絶えず自己研鑽に努め、組織一体となって支援にあたります。
- 障がい者の社会での自立と障がい者への正しい理解を得るために、地域社会との交流を進めます。

2 「5つの領域を含む総合的支援」に基づくサービスの提供について

株式会社イーイーエムでは、障害者総合支援法に基づき、「5つの領域を含む総合的支援」の視点によるサービスの提供をいたします。

5つの領域とは、

「健康・生活」

「運動・感覚」

「認知・行動」

「言語・コミュニケーション」

「人間関係・社会性」

の領域であり、これらを総合的に視点に入れた個別支援計画に基づいてサービスの提供を行います。

「5つの領域」の考え方とは

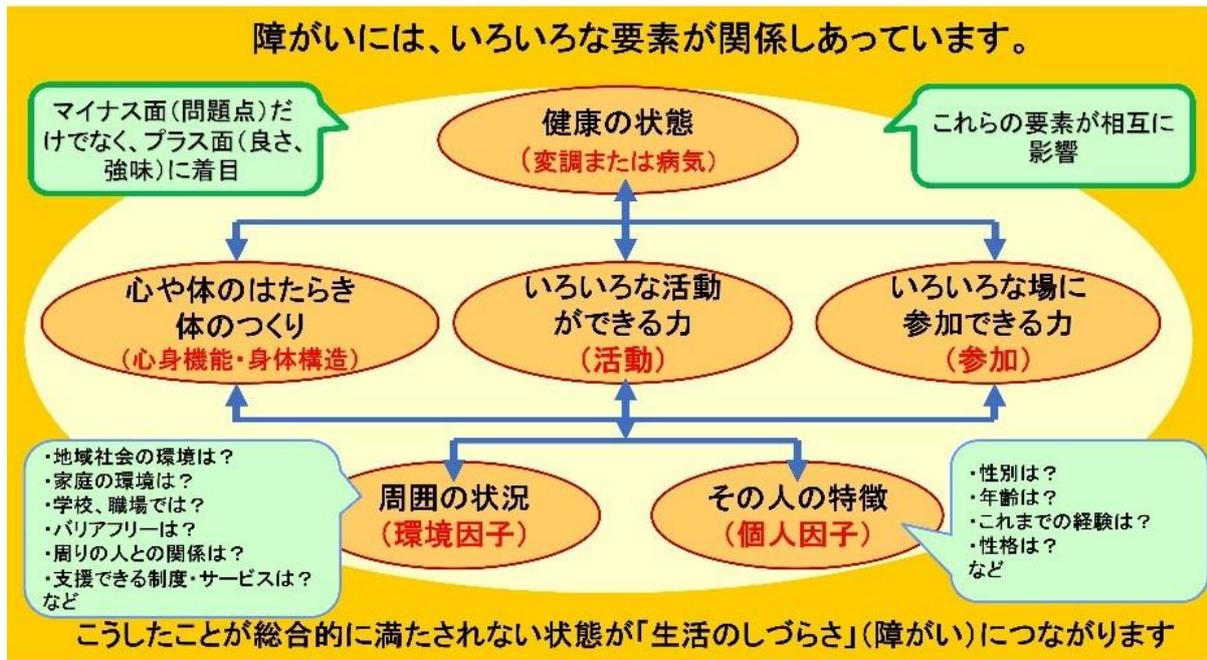
株式会社イーイーエムでは、重度心身障害のある方等を主として、安全、安心、満足できる場所と時間を提供し、家庭、地域、また就学の方は学校や、未就学の方は保育所等の場での「連続性」の中で、生き生きと過ごして行けるように支援します。

ご利用者にあたっては、障害や疾病の症状や特性だけでなく、

それによって、いろいろな活動や、社会などのいろいろな場への参加などに影響が表れ、また、その人個人の状況だけではなく、家庭、地域、様々な環境などが相互に関係しあって、「生活しづらい」状況が起きます。

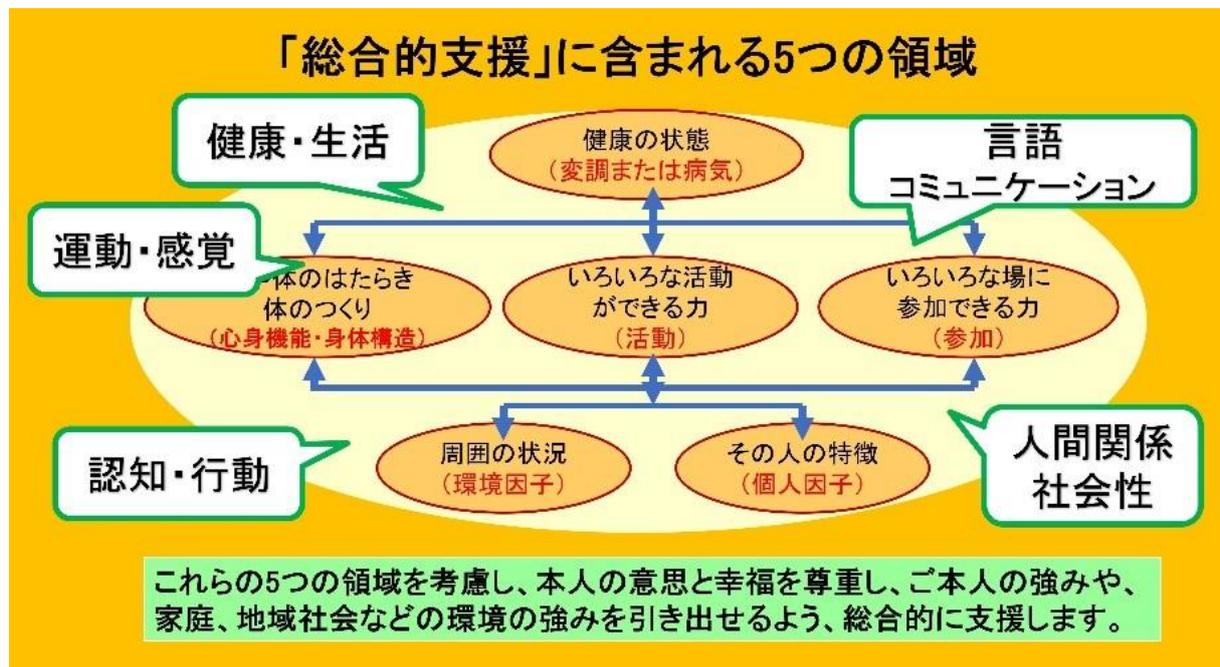
下記の図は、「国際生活機能分類（ICF）」に示された、障害の総合的な考え方ですが、図のように、障害にはいろいろな要素が関係しあっています。

そして、この様々なことを考慮して支援をしていくことで「生活しづらい」状況が改善され、安全、安心、満足できる「場所」と「時」が実現していくことを目指しています。



そして、この様々な要素の関係に着目し、「問題の解決」に加えて、その人やその人を取り巻く環境の「良さ、強みも伸ばして行ける」ことを考慮して支援をしていくことで、安全、安心、満足できる「場所」と「時」が実現していくことを目指しています。

この考え方に基づいて示されている要素が「5つの領域」です。

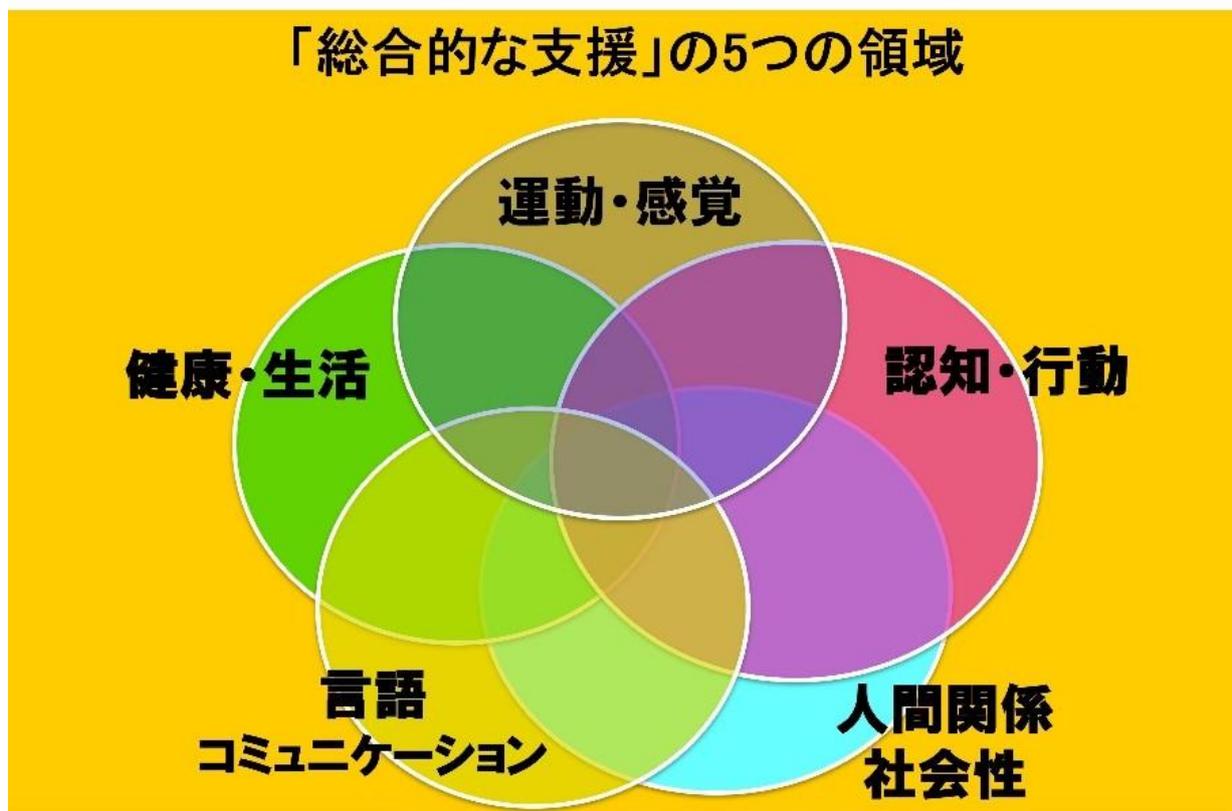


5つの領域による支援の具体的な内容

それでは、5つの領域による支援の具体的な内容についてご説明します。

下記の図は「5つの領域」の関係を表していますが、これら5つの領域はそれぞれ独立したものではなく、関係しあい、重なり合っているものと考えています。

この、重なり合った領域に総合的にアプローチすることにより、重度心身障害の幼児様から成人の方まで、ライフステージが移行しても連続的に支援していきたいと考えます。



① 健康・生活

重度の障がいのある方、医療的ケアの必要な方の多くは、在宅での暮らしを支えるためのチーム連携による支援が不可欠です。そのため、医療・福祉の専門職員間の連携により、過ごす場所や場面が変わっても、また、卒業などでライフステージが変わっても、見通しをもって安心できる切れ目のない支援を行い、健康面・生活面両面で「医療と暮らしの連続性」を目指します

例えば

- 安全で確実な医療ケアの提供と、ご家族との情報の共有
- 基本的な生活リズム（睡眠、食事、排泄など）を整え、家庭でも健康的に生活できるための支援
- ご利用者の能力や障害の状況に応じて、食事、おトイレ、移動など日常生活において、様々な支援を受けながら、一部ご自身の力を生かしながら、ご本人の思いを、思ったときに実現できるように支援していくこと

などについて、一人一人の個別の状況に応じて支援します。

② 運動・感覚

一人一人の障害の特性に応じて、無理なく心地よく、取り組むことのできるような支援をしていきます。

例えば

- 姿勢と運動・動作の基本的な力の向上を図る：楽な姿勢を保ったり、運動・動作の改善、体や関節の柔らかさを維持する、歩行や移動等の力を伸ばすなどの、機能訓練士によるリハビリテーション
- 視覚、聴覚、触覚などの感覚を通じた、楽しめる遊びを通して、感覚の力を伸ばせるような支援

などについて、一人一人の個別の状況に応じて支援します。

③ 認知・行動

ご利用者一人一人にとって、その感じ方、行動の仕方には、それぞれ特徴があります。その特徴、やり方、感じ方を大切にし、その方が持つその方ならではの強みを引き出していくことを目指します。

たとえば

- 視覚、聴覚、触覚などの感覚を活用して認知機能の発達を促す感覚あそびや、音楽活動、関わりかけや話しかけなどを通じた支援。
- 遊びや、レクリエーションの中で、いろいろなものを認知する力（物のはたらき、どういうものなのかとか、形、色、音、触感など）を養い、そこから何か行動できる力が伸びるように支援などについて、一人一人の個別の状況に応じて支援します。

④ 言語・コミュニケーション

重度の障がいのある方の多くは、言葉を話すことが難しかったり、周囲の人のコミュニケーションを理解したりすることが難しかったりします。しかし、一人一人には思いがあり、伝えたいこと、わかりたいこと、わかってほしいことが必ずあります。その心と思いを大切にし、利用者様にしっかり向き合いながら、その人その人の方法で言語・コミュニケーションを図れることを目指して支援します。

たとえば

- 言語を話す力を伸ばしたり、言葉以外でも気持ちを伝えたりする力を伸ばす支援（その人に合ったサインやジェスチャー、絵や写真などのツールの活用など、その人個別の工夫）
- 聞いたり理解したり、感じたりする力が伸びるように、その人の独自の感覚や、知覚の力に応じて支援・工夫
- 気持ちに寄り添って、声掛け、関わりをしていくこと

などについて、一人一人の個別の状況に応じて支援します。

⑤ 人間関係・社会性

ご利用者一人一人には大切な宝物があります。それは物だけではなく、なじみであったり、仲間であったり、やりたいことや夢であったりします。ご利用者が、家庭にいても、地域社会に参加されるときも、また、私たちのサービスを利用されるときも、どんな場所にいても、この大切な宝物をもって、関係性を育んでいき、その人らしく過ごせることを目指します

たとえば

- 職員や同じ利用者との交流、また、幼児さん、学童、成人の様々な世代のご利用者との交流を通じて、明るく楽しい関係性を積み重ねていく
- これから社会に出ても、みんなの中で安心して過ごして行けるように、適切な行動や、人との関りを支援する
- グループ活動や、地域社会への参加経験 など、楽しい経験を作っていくなどについて、一人一人の個別の状況に応じて支援します。

私たちは、これらの5つの領域を考慮した支援を、ご利用者一人一人の個別の状況に応じて、個別支援計画を立て、それに基づいた支援をします。

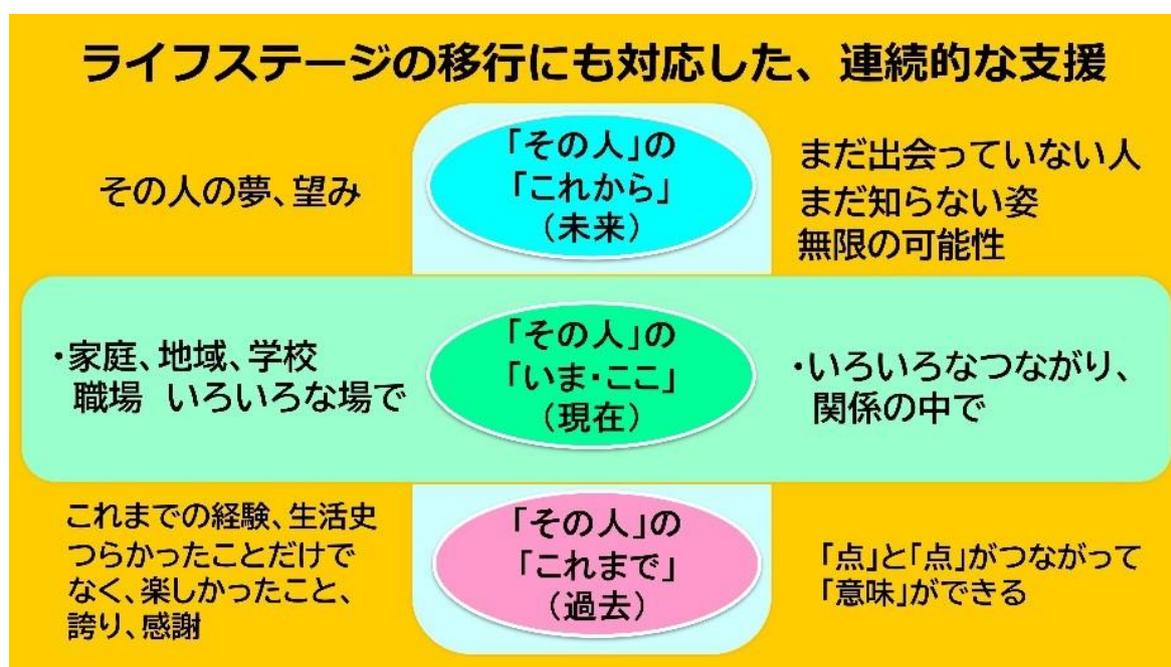
3 私たちだからこそ、目指していききたいこと

幼児期、学童期、成人期にわたるライフステージの移行に対応した連続的な支援

重度の障害や、医療的ケアが必要な方が地域で安心して暮らしていくためには、連続した、とぎれのない支援が必要です。

ご利用者が、幼児から学童へ、そして成人へとライフステージが変わっても、安心して家庭で、地域で過ごして行けるよう、

同じ法人にあります、5つの支援事業所や関係事業所間の連携と、「馴染みの連続性」を図り、ご利用者がどんな時も、どこにいても、安心できる環境を提供してまいります。



いまでも、これからも、安心・安全・満足できる「場所」と「時」を

わたしたちは、重度心身障害などの人が、0歳から64歳まで、家庭で、学びの場所で、そして地域で連続した「暮らし」のつながりを、連続した「なじみ」のつながりを支えていけるように、支援します。

「安全、安心、満足できる「時間」と「場所」が、ライフステージが変わってもそこにある。幼児さんから、学校生活へ、学生さんから成人へ移行してもそこに安心できる環境がある、なじみの人たちがいる、そんな居場所になっていくことを目指しています。